

小島付近の霧と事故発生現場 昭和48年

来島海峡で霧の発生する時期は3月頃から発生し始め、梅雨期の6月がピークで7月に終る。これ以外の月に発生することはきわめてまれである。

霧の発生・消滅、継続時間について波止浜の状況は28図の通りである。早朝に

発生して、日の出と共に消滅するものが多い。

来島海峡での霧の発生原因については、統計的に次のような条件となった場合が多い。

- 温暖前線が通過するとき。
- 瀬戸内に低気圧があるとき。
- 四国の南岸に前線が停滞するとき。
- 二つ玉低気圧が通過するとき。
- 海水温度と露点温度の差が少ないとき。

以上の状況のとき霧が発生しやすい。

第5節 今治地方の災害

表10 今治地方の災害年表

昭和47.8

災害年月日		災害の大要
西暦	日本暦	
1673	寛文13年 5月14日	洪水
1704	宝永 1. 8. 23	暴風雨 かわれた家344 米の損害約1200石
1707	4. 10. 4	地震 富士山爆発 関東、関西に被害あり
1707	5. 5. 6	暴風雨 蔵敷大樋門前の道路7~8間決壊
1710	7. 6	洪水 被害が多かった。
1714	寛永 7. 6.	洪水
1724	享保 5. 4. 28	大火災 室屋町山本作衛門宅より出火 付近80軒焼失
1722	7. 6. 23	大洪水
	7. 8. 22	東風雨強じ 蒼社川浅川決壊 辰の口橋流落 家屋 480戸

1724	享保 9. 4~6月	倒壊 米損害8008石 3斗 水田流失 572町歩 蔵敷村一面冠水、町方へ流入
1724	享保 9. 8. 14	大干ばつ 4~7月まで90日間降雨なく「百年来の干ばつ」という
1727	享保14. 6.	高潮 22時に常潮より1.5m 本町で1m高くなる。
1729	享保14. 8. 19	干ばつ 光林寺で雨乞いを行なう
1729	享保14. 9. 14	暴風と高潮 水田流失2531町 堤防決壊2005間 106ヶ所 米損害27603石 壊れた家 746 死亡 2
1731	享保16.	大暴風雨洪水高潮 米損害3389石 被害田 300町 かわれた家 121軒 堤防決壊2531間 道路決壊11ヶ所 死亡 1
1732	享保17.	米できすぎ 古米が余り保存や売却したが半分が腐る 虫害干害 ウンカ大発生収穫激減被害大 全国的ききんとなり米不足 米価あがる 全国の死者 17万
1737	元文 2. 8.	大洪水
1739	元文 4. 8. 5	暴風雨大洪水高潮 別宮寺町床上浸水 水田冠水 862町
	延享 2. 5. 29	米損害8553石 倒壊家屋 319 土手18ヶ所決壊 溺死 1
1745	延享 2. 5. 29	大雨洪水 道路2580間決壊 土手90ヶ所決壊 死者 2
1751	宝暦1.閏6. 18	暴風雨 蒼社川決壊 八丁高紹寺高下まで冠水 米損害 7743石
1757	宝暦 7. 7. 26	暴風雨 全域冠水 本丸・二の丸・やぐら・門等大破 倒壊家屋1792 社寺倒壊34 米損害18081石 死者 1
1771	明和 8.	鹿ノ子池工事始まる (寛政11年終る 期間29年)
1795	寛政 7.	犬塚池工事始まる (文化14年終る 期間23年)
1826	文政 9. 5. 20. 21	大風雨 倒壊家屋 157 砂入田畑2614石分
1826	文政 9. 6. 6	風雨 溺死23 破船50隻
1836	天保 7. 12. 1	火災 北新町出火 30軒余焼失
1836	天保 7. 12. 16	多雨 雨多く凶作のため藩の収入なく損失24528石
1837	天保 8. 4. 24	ききん 別宮村でかゆのたき出し 1日1200人分50日間
1837	天保 8.	疫病流行 死者多数
1854	安政元. 11. 5	大地震 18日まで余震今治城郭破損道後の湯一時止まる
1857	安政 4. 8. 25	大地震 海岸方面に被害あり 突堤は皆くずれる
1879	明治12. 3~8月	コレラ流行 今治町患者 600余人
1884	明治17. 8. 25	暴風
1886	明治19. 8. 21	大暴風雨 蒼社川よりの流木で片原町方面人家を破壊
1886	明治19. 9. 10	近見村も全沿岸大被害あり 県費で波除石垣築造
1890	明治23. 7.	コレラ大流行 患者 133 死者95
1893	明治26. 10. 14	大暴風雨洪水 蒼社川決壊 浅川海岸破壊同町浸水 溺死 1 行方不明 4 家屋流失48 全壊79 半壊 101 浸水 家屋 665 流失船11 水田流失1000町歩 堤防決壊14 1 時間最高雨量40mm
1894	明治27. 6.	赤痢大流行 患者 133 死亡46
1895	明治28. 8.	コレラ流行 8月15日~10月29日 患者88 死亡63
1901	明治34. 6~8月	洪水 蒼社川決壊
1902	明治35. 7. 27	コレラ大流行 漁師町で1名発生して広がり、今治村日吉村患者多し 発病 243 死者 140 治ゆ 103
1907	明治40.	ペスト 有菌ネズミ市内で15匹発見 患者なし

明治26年10月14日洪水写真



濁流中に縁者のめい福を祈る老婆



蒼社川の決壊地点



流失家屋の跡形もない

た土砂でうずまった蒼社川の川底は、土手の上から60cmほどしか深さがなかったのに驚いた。

しばらくして切れた土手の反動だったのか高橋側も切れ、その水が押し寄せてくるのと、町の人が帰りつくと同時に、今治の町はたちまち軒まで水につかってしまった。

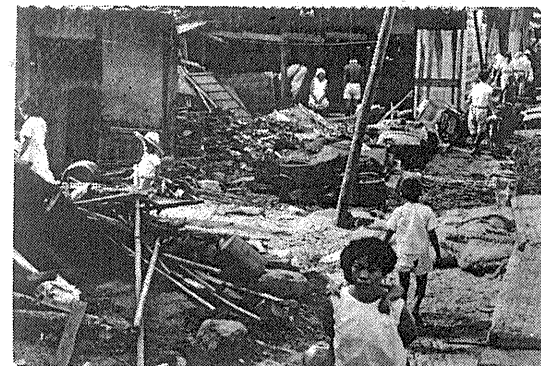
鳥生も祇園さんの下で切れ、川の両側が水浸しとなる。流失水田清水側1000町歩高橋側700町歩ぐらいと思われる。

当時の状況聞き書き (昭和48.9記)
東方向からの暴風雨が4日ほど続く。総代をしていた父と蒼社川の土手へ上って見ると、広い大川も濁流でいっばいとなり、遠方から川水の盛り上って流れるのが見えるほどであった。

西の高橋側土手が切れそうになり、かます俵に砂を入れて土手に積んだがなお危険が続き、しきたりに従って清水側の谷山川を出たところの上側の土手をわざと切る。これで高橋側の水量も減り、西側の人々は安心して家路についた。川上より押し出した

1909	明治42. 7	赤痢流行 患者73 死者23
1915	大正4. 2	腸チブス 赤痢流行 今治村で腸チブス患者51、赤痢37
1915	大正4. 9. 8	暴風雨高潮 今治町で潮入田畑11町 家屋被害 138戸
1918	大正7. 8年	流行性感冒 スペインかぜ 死亡84
1920	大正9. 2. 11	今治市制実施
1925	大正14. 3. 14	暴風 建築中の家屋倒壊3 第四小学校スレート屋根半分はく脱 大浜漁船遭難死亡者多数
1926	大正15. 7. 7	洪水 1日の雨量 240mm寺町、室屋町、北新町、慶応町 別宮方面浸水(別宮、今治校区被害大) 浅川堤決壊
1934	昭和9. 8	大干ばつ 6/中~7月/上旬、7/22~8月/末 酷暑大日照り降雨なし電力揚水の灌漑用井戸約30ヶ所掘る 水田被害15万円
1934	昭和9. 9. 17~	室戸台風 家屋全壊6、半壊25 床上浸水 229 床下浸水 750 田畑冠水1000町歩
2945	昭和20. 8.5~6日	今治空襲 米軍B29の空襲により全市焦土となる

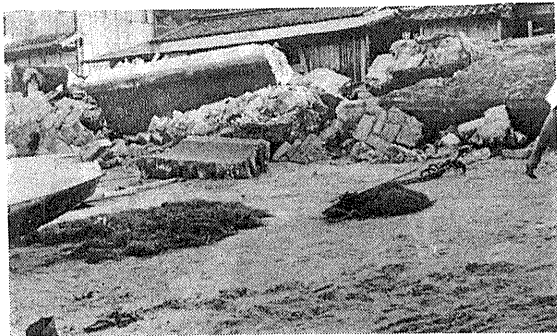
1945	昭和20. 9. 17	枕崎台風 風速41m 蒼社川堤防決壊寸前にせまる 高潮風水害あり
1945	昭和20. 10. 8	多雨 335mm 床下浸水 340戸 田畑埋没29町
1946	昭和21. 12. 21	南海大地震 震度4 午後4時頃数分にわたり強震 沿岸一帯地盤沈下 0.5~1m
1947	昭和22. 10. 15	火災 常盤町9丁目全焼12戸 半焼1 被災世帯17
1949	昭和24. 6. 1	火災 全焼5棟 半焼3棟 三和劇場焼ける
1949	昭和24. 6. 19	テラ台風豪雨 龍登川はん濫 蒼社川決壊寸前となる 家屋損害4 床下浸水75 田畑冠水 141町青葉丸沈没
1950	昭和25. 7. 27	ヘンリー台風 家屋倒壊1 床下浸水 122 堤防決壊1 田畑冠水22.3町 道路決壊4 木材流失 150石
1950	昭和25. 9. 13	キジヤ台風 金星川に潮水逆流し中心街水浸しとなる 道路決壊2 船流失1 浸水家屋1170 田畑流失66町 浅川堤防決壊2
1950	昭和25. 11. 9	強風 今治沖で貨客船沈没 死者行方不明17 海上北北東風速5~6m (第二高島丸積荷過重か)
1951	昭和26. 8. 20	突風 家屋全壊2 半壊2 落雷家屋焼失1
1952	昭和27. 7. 11	洪水 10~11日 175mm堤防決壊5 道路決壊11 床下浸水1230 (寺町、花園町、大神宮、北新町、西新町、黄金通 広小路、西新町、高砂町、宝来町、日吉町) 水田埋没4町歩 冠水 420町歩 畑20町歩 家屋倒壊2 がけくずれ4
1952	昭和27. 9. 1	雷雨 桜井地区落雷のため死者1 堤防決壊1
1953	昭和28. 3. 25	強風火災 榎町火災全焼5 半焼4
1953	昭和28. 6. 7	2号台風洪水
1954	昭和29. 7. 4	大雨 家屋一部破損29 床上浸水19 道路決壊7 堤防決壊2 山くずれ2
1954	昭和29. 8. 18	5号台風 道路冠水1
1954	昭和29. 9. 13	12号台風 暴風雨 新町~栄町河岸端、常盤町ドンドピ本町等浸水家屋1700 内床上浸水 180 建物全壊30、半壊40
1954	昭和29. 9. 26	暴風雨 高潮、洞爺丸沈没、降雨多し



昭和45年 10号台風の波浪被害 (港海岸)

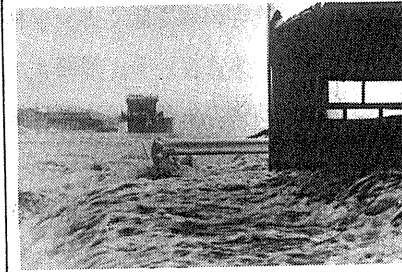
今治の自然

1955	昭和30. 1. 19	強 風	天保山市営住宅12戸全焼 漁船行方不明 1
1955	昭和30.4. 15~16	大 雨	新田中井手川堤防決壊 橋流失 1 道路損壊 1 田畑冠水 1町歩 床下浸水
1955	昭和30.9. 29~30	22号台風	暴風雨 高潮被害 250 床上浸水 1 床下浸水 266 半壊 1 田畑冠水915町 道路決壊 2
1955	昭和30. 10. 4	23号台風	暴風雨 風速20.8m 棧橋沈没 6 今治造船作業場70坪全壊 半壊 2 床下浸水15 堤防決壊 100m
1956	昭和31.1. 27~29	暴 風	(季節風) 床上浸水35 床下浸水 147 航路欠航
1957	昭和32.9. 6~7	10号台風	暴風雨 床下浸水 7 道路決壊 2
1958	昭和33.7. 3	大 雨	局地的 132mm 死亡 1 床下浸水 554 非住家被害 2 水田冠水94町 道路決壊 2 堤防決壊 135 護岸破壊 5ヶ所 250m 港湾施設損害 2ヶ所
1958	昭和33. 7. 11	濃 霧	視界わるし 来島海峡で機帆船座礁 1
1959	昭和34. 8. 7	6号台風	床上浸水31 床下浸水84 道路決壊 1
1960	昭和35. 4. 26	濃 霧	今治沖で貨物船座礁
1960	昭和35.7. 7~8	大 雨	154mm 死者 1 床下浸水153戸 水田冠水243ha かけくずれ道路損壊 6 堤防決壊12
1961	昭和36. 2. 23	異状乾燥火災	中浜町住家全焼 17 半焼 4 重軽傷 8
1961	昭和36. 7. 2	濃 霧	今治沖で機帆船座礁
1962	昭和37. 2. 21	火 災	蔵敷字大浜更生寮焼失、被災25世帯 被災者88
1962	昭和37. 3. 15	落雷ひょう	正午頃15分間降ひょう 落雷のため樋口今井タオル工場火災発生
1963	昭和38. 6. 18	濃 霧	今治沖で機帆船座礁
1964	昭和39. 1. 16	強 風	今治沖で機帆船沈没
1964	昭和39. 9. 25	20号台風	風速22m 多雨 1日 152mm 棧橋沈む天保山 床下浸水77戸
1965	昭和40. 9. 17	24号台風	予讃線今治松山間浸水部あり 家倒壊 1
1966	昭和41. 9. 7	火 災	竹屋町丸武タオル工場焼失 負傷者 7
1966	昭和41. 9. 18	21号台風	大雨 北新町床上浸水30 予讃線一時不通
1967	昭和42.7. 8~9	多 雨	
1967	昭和42.7/26~9/11	異状干天	48日間降雨なし (松山气象台最長期記録)
1968	昭和43. 2. 15	異状積雪	交通まひ 志島ヶ原老松倒れる 50~100年の



昭和29年 台風被害

1968	昭和43. 7. 11	火 災	松本町阿部直織産業KK焼失 負傷者 6
1970	昭和45. 6. 7	火 災	阿部直織織工場八丁工場1100㎡焼失 負傷 4
1970	昭和45. 8. 21	10号台風	風速30.5mの烈風海上より襲い、防波堤を失ない港湾施設の多くが壊れる。このため本町銀天街をはじめ市中心部に海水浸入床上浸水 135 床下浸水 700 重傷 3 軽傷 2 家屋全壊12 半壊 175

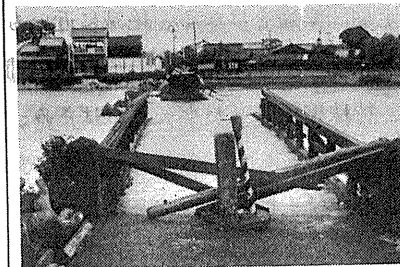


10号台風被害 港のフェリー待合所付近

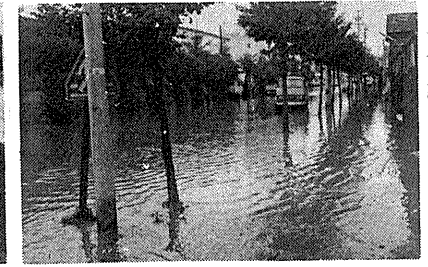


新町商店街

1972	昭和47. 9. 8	集中豪雨	9/8~9雨量 207.4mm最大時間当り76.2mm 災害救助法発動 重軽傷 8 全壊家屋 2 半壊家屋 12 床上浸水 972 床下浸水5496 田畑流失39ha冠水田畑 798 ha かけくずれ 586 鉄道不通 3 未曾有の局地豪雨で蒼社川、浅川、龍登川はん濫全市に被害あり、鉄道国道一時途絶する。被害額24億円
------	------------	------	--



集中豪雨で城東橋流失 昭和47.9.8



集中豪雨による共栄町 5丁目付近浸水